

てまいります。

健やかな体を育成する教育の充実

日常生活における運動時間の減少などから、子どもたちの体力・運動能力は低下している状況にあります。日高町の子どもたちにおいても、全国体力・運動能力、運動習慣調査では、全体的に全国平均を下回っております。体力や運動能力の向上には継続的な取組が不可欠であり、調査結果を踏まえた体力向上等に向けた取組の一層の充実が求められております。

そのためには、体育授業における基本の運動の通年実施や1校1実践、新体力テストの全学年全種目実施や複数回実施など、運動の日常化と継続化を図り、体力・運動能力の向上とともに運動習慣の定着を目指してまいります。

学びをつなぐ教育の充実

幼児教育と小学校教育を連携・接続させ、子ども一人ひとりの育ちと学びをつなぐ教育の充実が求められています。

そのためには、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児期から児童期にかけての教育のつながりを各教育機関が理解する必要があります。そこで、町内の幼児教育施設と小学校との情報共有を図るなど、連携体制の整備に取り組んでまいります。

「よりよく子どもを育てていく」という目的を実現するためには、義務教育9年間を通して子どもの育ちを見守るという「共通の視点」が小学校にも中学校にも必要であります。

そのためには、9年後の目指す子どもの姿を想定し、小・中学校が情報交換や交流、共通実践を通

じ、小学校から中学校への円滑な接続を目指す小中連携の一層の充実を図ってまいります。

また、門別小学校・中学校の改築計画を進めておりましたが、改めて門別地区の統廃合を含めた小・中学校の適正規模・適正配置について検討をしております。

さらに、地域との連携においては、コミュニティ・スクールを有効に機能させ、早寝早起き朝ごはん運動を通し、電子メディアに触れる機会を減らすなどの生活・学習習慣づくりを支援してまいります。

他校種との学びの接続では、高等学校との連携も欠かせません。特に、中学校と義務教育ではなくなる高等学校との間には大きな段差があるため、この段差を低くすることが必要です。

そのためには、中学校と高等学校（富川高校・日高高校）との連携を図り、両校が共通の認識をもつとともに生徒が地域の高等学校をより身近なものとして感じることができるようになります。

また、中学校までで培った基礎的な知識をもとに、より専門的な教育を受ける高等学校への進学意欲を高め、個々の生徒の進路選択、さらには地域全体の学力の向上へとつなげてまいります。



子ども一人ひとりに寄り添った教育の推進

多様な子どもたちの客観的な実態に基づき、教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限引き出す

取組が求められています。特別支援教育の充実はもとより、よりよい人間関係を形成し、自己指導力を育てていくことが重要であります。

そのためには、困難性を抱え、特別な支援が必要な子どもに寄り添える支援員を配置するとともに、多様な学びに対応する学習環境の整備を進めてまいります。

また、近年増加傾向にある外国人児童生徒については、受入体制の整備や「特別の教育課程」による日本語指導を進めてまいります。不登校児童生徒については、スクールカウンセラーの活用やケース会議の開催など相談・支援体制を整え、学校を中心に家庭や関係機関との連携を図りながら、解消に向けた取組を推進してまいります。

実効性の高い働き方改革の推進

教育活動の多様化・複雑化に伴い、教職員の常態化する長時間勤務の解消が喫緊の課題として取り上げられてきました。業務改善を進め、教師が自らの専門性を高め子どもたちとじっくり向き合うことのできる、より実効性の高い「働き方改革」が求められています。

そのためには、校長のリーダーシップの下、カリキュラム・マネジメントに基づく効率的で組織的な学校経営を支援します。教職員の労働時間については、ホームページで公表しておりますが、今後も学校閉庁日や定時退勤日の設定を推進してまいります。

さらに、スクールサポートスタッフの導入や部活動の地域移行など、地域との協働による学校を応援する体制づくりを進めるとともに、校務支援システムの導入を

検討し教職員の負担軽減を図ってまいります。

魅力ある高等学校への支援の充実

少子化の進行や高等学校教育改革など高校を取り巻く環境が大きく変化する中、町立日高定時制高等学校、道立富川高等学校の両校は、定数確保に向けた魅力ある教育活動の展開が重要な課題であります。

そのために、日高高等学校につきましては、少人数教育のよさを活かし、タブレット端末の購入助成、A Iドリルを活用した個に応じた効果的な学習により学びの支援を図り、豊かな自然や地域の人々とのふれあいの中で、様々な体験活動を行う産業学習事業と連携融合した希少な高等教育機関として、生徒確保に向けた取組を進めてまいります。

富川高等学校におきましては、支援対策条例に基づく支援を継続し、タブレット端末の購入助成を進め高校における1人1台端末の活用やICT活用サポート体制の整備等、新たな学びの環境構築に向け支援してまいります。

さらに、関係諸機関と連携し、定数確保に向けた取組をより一層推進してまいります。

社会教育

次に、社会教育について申し上げます。

各項目につきましては、令和5年度から5年間を計画期間とする第三次日高町社会教育中期計画に基づき推進します。

社会教育

生涯学習の推進につきましては、町民の要望の多様化、社会的

要請のバランスを確保し、これまでの知識・技術・経験を継続し醸成しつつ新たな創造により町民のニーズを活かした多様な学習機会の提供、学習しやすい環境づくりに努めてまいります。

また、社会教育活動がより豊かで効果的な習得となる活動指導やアドバイスをを行う社会教育主事の配置や社会教育担当職員等の育成・資質向上を図るとともに、住民が生涯にわたって自主的に取り組む学習・文化活動・スポーツ活動を支援し、地域人材の発掘や育成、地域へ還元される仕組みや環境づくりに努めてまいります。

幼児期につきましては、次代を担う子どもたちが健やかに成長し、豊かな感性や情操を育むため、親子の体験活動や運動機会を提供し、体力向上や運動習慣の定着を目指した取組を進めてまいります。

青少年期につきましては、子どもたちの生活習慣を整え「生きる力」を育むため、適切な睡眠時間の確保や正しい電子メディアの利用方法の啓発など、早寝早起き朝ごはん運動の取組を推進するほか、野外活動などの体験型事業やスポーツ活動を通して健やかな心身の発達を支援してまいります。また、団体活動を通して自ら積極的に行動し、協力・協調できる心の育成を図る機会となる子ども会活動やスポーツ少年団などの活動支援や協働事業を行い、青少年の健全育成に努めてまいります。

成年期につきましては、文化活動やスポーツ活動を通じて町民間の交流を促進し、活気あるまちづくりが進められるよう社会教育委員やスポーツ推進委員などとの連携を図るとともに、文化団体やスポーツ団体への支援を行い官民協働事業を推進してまいります。

高齢期につきましては、長寿社会を健康で心豊かに過ごし、学ぶことに生きがいを持つことのできる高齢者大学事業等の学習活動やスポーツを推進し、学習機会や学習環境の充実を図ってまいります。

文化活動

音楽、演劇、舞踊、美術、文芸活動などの文化活動の振興につきましては、楽しさや感動、精神的充足感と生活に潤いをもたらします文化活動は、幅広い世代の方々に芸術文化の活動や鑑賞機会の提供を行い、町文化協会や町民の自主的な文化創造活動を支え、活動しやすい環境を整えてまいります。



図書館郷土資料館・日高山脈博物館

図書館では、町民が多種多様な情報を利用できるよう継続的に資料を更新するとともに、町民の知的好奇心を刺激し読書への関心を高める取り組みを進めてまいります。

子どもの読書については、引き続き移動図書館の巡回・学校図書館への支援、町内で生まれた赤ちゃんへの絵本無料配布を実施いたします。

郷土資料館、日高山脈博物館では、収蔵資料の公開に努めるとともに、資料の持つ情報をより分かりやすく伝えるための展示の解説方法などの工夫に努めてまいります。

また、文化財では国・道指定の文化財の管理、郷土芸能において